

情報通信審議会情報通信技術分科会
衛星通信システム委員会（第12回）会合 議事要旨

1 日時

平成20年12月17日（水）15時30分から16時30分

2 場所

総務省5階 第4特別会議室

3 出席者（敬称略、順不同）

（1）構成員

大森 慎吾（主査）、遠藤 信博、大石 雅寿、尾上 誠蔵（代理：古川 憲志）、河合 宣行、菊井 勉、佐藤 祐子、新城 達郎（代理：菊地 剛）、高橋 和子、徳永 恭子、西尾 裕一郎、萩原 英二（代理：安島 巧）、服部 武、本多 美雄、正村 達郎、室田 和昭（代理：坂戸 美朝）、若尾 正義（代理：岡田 裕二）

（2）説明者

安藤 清武、田中 靖人、山本 勝美

（3）オブザーバ

高度通信振興課 小津推進官

（4）事務局

鳥巢衛星移動通信課長、新田衛星移動通信課企画官、永田課長補佐、吉田係長、田野係長

4 議事概要

議事に先立ち、説明者の紹介、衛星移動通信課長挨拶、資料配付の確認が行われた後、以下の議題について審議が行われた。

（1）情報通信審議会への諮問及び運営方針について

事務局から、資料12-1-1、資料12-1-2及び参考12-2に基づき、諮問案件、委員会の名称及び所掌の変更、運営方針（案）について説明が行われた後、以下の質疑応答があった。

- 運営方針にある審議事項の審議を終えたら、委員会は廃止されるのか。
- 委員会は、審議事項の審議を終えたら廃止するのが原則。

（2）Ku帯VSATシステムの高度化について

説明者から、資料12-2-1及び資料12-2-2に基づき説明が行われた後、以下の質疑応答が行われた。

- 既存のVSATと同じ周波数帯域を使用するシステム同士はどのように共存するのか。
- 例えば、衛星の軌道位置の離隔で干渉を回避することで、同じ周波数帯でも共用が可能。一般的にKu帯では4度以上の軌道間隔があれば共用可能。
- Ku帯VSATの高速化については、日本の衛星向けの制度なのか。
- 制度化されれば、日本の衛星に限らず、国内で運用する全てのシステムに適

用される。

- 資料 12-2-2 では、衛星から固定局への影響には触れられていない。固定局に対する干渉の影響も検討するのか。
- 衛星から固定局への干渉についても、作業班で検討されるものと思料。

(3) 審議方針について

事務局から、資料 12-3 に基づき説明が行われ、特段質疑応答はなく了承された。

<配付資料>

資料 12-1-1	情報通信審議会情報通信技術分科会諮問第 2027 号 諮問書
資料 12-1-2	衛星通信システム委員会 運営方針（案）
資料 12-2-1	Ku 帯 VSAT システムの伝送速度の向上について
資料 12-2-2	Ku 帯 VSAT システムの適用周波数の拡張について
資料 12-3	衛星通信システム委員会 審議方針（案）
資料 12-4	Ku 帯 VSAT 高度化作業班 構成員名簿（案）
参考 12-1	移動衛星通信システム委員会（第 11 回）会合 議事要旨
参考 12-2	「衛星通信システム委員会」への名称変更について
参考 12-3	衛星通信システム委員会構成員名簿